学校だより
セルリアンブルーの風

北海道函館高等支援学校
第５号
令和２年３月 24 日発行

学校は小さな社会

北海道函館高等支援学校長　立　田　俊　治

この冬は、かつてない暖冬となり驚きました。雪による臨時休校の心配はありませんでしたが、北海道らしくない風景に、いささか寂しさを感じました。

一方、新型コロナウイルスの感染が世界的に広がり、収束には見通しが立ちません。この間、本校も臨時休校の措置をとりましたが、保護者の皆様におかれましては、御理解と御協力をいただきまして心より感謝を申し上げます。

さて、私は長期休業前集会の校長講話では事前に生徒代表数名へインタビューをして、その内容を講話に入れております。以下、そのいくつかを紹介します。

① 入学して友だちもできたし、１期生のみんなは話しやすいです。
② 中学校のときよりも、勉強では応用問題が出るなと思います。数学の進度が少し早いと感じました。作業学習はつらくはないです
③ 学校祭では普段の学校生活ではできない、一般のお客様にコーヒーを出したり、ステージで劇や踊りを発表したりすることができました。午前は演劇、午後はカフェの開店と、中学校のときよりも忙しかったです。
④ ホームセンターの現場実習では、１日に５人のお客様から問い合わせがあってすごく緊張しました。高齢者施設では、利用者の方とお話をしたのですが、相手の方に合わせて話題を考えるのが難しいです。

これらから、１期生たちの気持ちを察しますと、中学校のときの学校生活とずいぶん違うと思っているのではないでしょうか。互いの関係性を築く苦労や、普段は仲が良かったのに些細なことでトラブルになってしまったこともあるでしょう。学校祭や現場実習では、お客様などと接することに緊張と戸惑いを感じていたことでしょう。これは、中学校のときよりも社会や地域との接点が強くなり、実社会のリアルさ（現実度）を体感したためと考えます。

学校は楽しいところであるべきです。しかし、同じ楽しい場所でも遊園地とは違います。遊園地では、その時間だけ楽しければ幸せであり、本人の努力は必要ありません。一方、学校生活を充実するためには、本人の努力も必要となってきます。その時々の楽しさも喜びもつらさも悲しさも悔しさも、全て「学ぶこと」、「生きること」となり社会に出て「働くこと」につながっているのです。小さな社会としての学校は、卒業後の実社会につながるように学校生活を整える必要があると、1 期生の声からしみじみと考えさせられた１年間でした。

今日も生徒の登校していない学校は、「し～ん」という音が聞こえてきて、目の前にその文字が浮かび上がるほどに静寂しています。生徒のいない学校が、これほどまでに寂しい空間だったことを心底感じています。学校の主役は生徒です。生徒が生き生きと活動するからこそ、学校生活にドラマが生まれ、感動が共有され、生徒の成長を促します。新年度も新しい学校生活のドラマが生まれないかと、たくさんの「どきどき」と少しの「はらはら」を胸にしながら、令和２年度の新学期を職員一同で心待ちにしております。

令和２年１～２月の様子

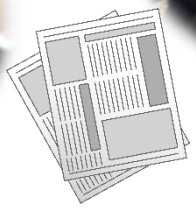
１月 30 日　ハローワーク講話を行いました





２月４日　道新出前講座を行いました



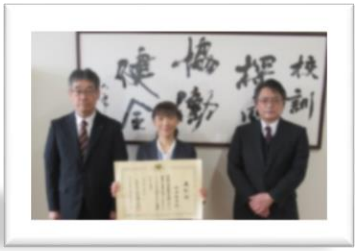

２月 12 日　職業講話を行いました






脇澤敏美教諭が令和元年度文部科学大臣優秀教職員に表彰されました






２月 21 日　公開研究会を行いました　〈公開授業の様子〉

普通科　総合的な探究の時間





食品デザイン科　作業学習





生産技術科　作業学習





福祉デザイン科　作業学習





４月の行事予定

日	行　事	日	行　事
８日（水）	着任式・始業式	20 日（月）	内科検診　（1・2 年生）
10 日（金）	入学式	21 日（火）	尿検査一次（1・2 年生）
15 日（水）	二計測・色覚検査　（1 年生）	22 日（水）	眼科検診　（1・2 年生）
	二計測・視力検査　（2 年生）	23 日（木）	耳鼻科検診（1・2 年生）
16 日(木)	視力検査・聴力検査（1 年生）	24 日（金）	制服セミナー
	対面式	29 日（水）	昭和の日
17 日（金）	交通安全講話	30 日（木）	尿検査二次